



# CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会 長 鈴木 正人  
幹 事 嵐 繁雄  
SAA 後藤 泰治  
会報小 今泉 敏徳  
委員長

○例会日 毎週水曜日(12:30～13:30) ○事務所 いわき市植田町中央一丁目6番地の9  
○例会場 ホテルミドリ 〒974-8261 ホテルミドリ内  
TEL0246-62-3737

第 2755 回 例 会 平成 30 年 11 月 21 日(水・晴)

2018 - 19 年国際ロータリーのテーマ  
インスピレーションになろう

ゲスト

常陽産業研究所

チーフエコノミスト 尾家 啓之 様

ロータリーソング 奉仕の理想

ー今月はロータリー財団月間ですー

ロータリーの行動規範  
鈴木 雅之 会員



## ◎会長報告ー鈴木正人会長

皆さん、こんにちは。秋も深まり、週末になるとさらに朝晩の冷え込みが強まりそうです。風邪など引かない様、体調管理には充分気を付けて頂きたいと思えます。11月13日(火)に、いわき分区新会員合同研修セミナーがクレールコート内郷館で開催されました。鹿島RCを除く9クラブ47名(内新会員27名)の参加で行われました。当クラブからは新会員10名が参加して参りました。いわき分区高萩ガバナー補佐の挨拶から始まり、第一部の講話に入りました。講師の元地区委員長橋本芳家様(常磐RC)からは、ロータリー財団、米山記念奨学会について説明を頂き、奉仕には社会的奉仕と人道的奉仕の2本柱で成り立っているとのお話しを頂きました。同じく元地区委員長の比佐臣様(小名浜RC)からは、例会を通してロータリーの仲間と積極的に情報交換をして下さい。例会には「年次計画書」「会員名簿」を常に持参して、仲間を良く知る事が大切であると言っていました。地区研修委員の中田博道様(平中央RC)からはRCの歴史と第2530地区の地区目標は青少年の育成に重点を置いているとの話がありました。参加された新会員の皆様には今後の卓話の中で感想を述べて頂ければと思っています。11月15日(木)には「いわき分区第4回会長幹事会」が開催されました。2019-20年度の分区ガバナー補佐に常磐RCの上村直人氏に決まった旨の報告がありました。来年2月23日(日)に行われるIMの講師に中村靖治(古川RC)・

RLI日本支部ファシリテーター委員長を招くとの報告がありました。そして、各クラブの現況報告がありました。本日の卓話は会計の畠山会員の予定でしたが、急用のため常陽銀行系列の「常陽産業研究所」チーフエコノミストの尾家啓之様をお願いしております。後程、卓話をお願いします。

## ◎幹事報告ー嵐繁雄幹事

- ・東京江戸川ロータリークラブより週報、福島民報より世界水族館会議の掲載文が届いて只今回覧中です。
- ・国際ロータリー青少年会議の開催のお知らせが届いております。24日地区大会の同じ日に同じ会場で開催されます。磐城農業高校からも生徒2名、先生1名の計3名が参加する予定です。
- ・いわき市よりいわき市のまちづくり未来づくり講演会開催について案内が届いています。
- ・いわき分区より新会員研修セミナー報告が届いており只今回覧中です。
- ・地区大会が今週23日、24日に會津風雅堂で開催されます。朝6時出発ですので時間を間違えないようによろしくをお願いします。
- ・本日例会終了後臨時理事会を開催します。理事者の方はよろしくをお願いします。

## ◎各委員会報告

### ◇出席委員会ー吉野彰芳副委員長

本日の出席状況は下記の通りです。なお、出席奨励賞をお渡し致しますので名前を呼ばれた方は前の

方へどうぞ。富岡幸広会員、富澤藤利会員おめでとございます。



◇スマイルボックス委員会ー赤津善宣小委員長  
・外部卓話常陽産業研究所チーフエコノミスト尾家啓之様の卓話を歓迎して。富岡、赤津(善)、高萩、生駒、吉野、山下、岩本、荒川(義)、影山、鈴木(雅)、荒川清、清水、佐藤(政)、大平、川口、鈴木(修)、橋本、斉藤、林、今泉各会員及び鈴木会長、木幡会長エレクト、嵐幹事

・出席奨励賞ありがとうございました。

富岡、富澤各会員

・本日早退ごめんなさい。 畠山、菅野各会員

・前回休んでごめんなさい。

生駒、鈴木敏、高橋各会員

・いわき勿来ロータリークラブゴルフ愛好会で優勝しました。 山下会員

## ◎外部卓話



常陽産業研究所

チーフエコノミスト 尾家 啓之様

歴史と伝統のあるいわき勿来RCにお招きいただきまして誠にありがとうございます。AI(人工知能)につきましても、現在第3次ブームを迎えていまして、飛躍的にその性能が高まっています。今後、単純作業、定型的な仕事はどんどんAIに置き換わっていく可能性が高いです。一方、マネジメントやクリエイティブな分野、人と共感できる分野、人生の質(QOL)を向上させる分野に関しては、やはり人間が果たすべき部分が多いのではないかと思います。

電子マネーについてですが、これまでわが国は、キャッシュ大国でありまして、長いこと現金神話が続いてきました。キャッシュレス化比率が2割程度で、9割の韓国などと比べると遥かに低いです。勿論現金文化のよい面は残しつつも、もう少しキャッシュレス化率を高めていきたいと政府(経済産業省)は考えているようです。

さて、ここからは黒田日銀の金融政策の話をしたしたいと思います。第二次安倍内閣が、①大胆な金融政

策、②機動的は財政政策、③民間投資を喚起する成長戦略、という「3本の矢」を経済政策運営の柱にしたアベノミクスを携えて政権に返り咲いたのが2012年12月です。それまで15年ほど続いた長引くデフレこそがわが国経済の諸悪の根源と捉え、全力でこれを退治するというのがアベノミクスの考え方です。黒田日銀総裁は2013年3月に就任しましたが、言わばアベノミクスの表看板である一本目の矢、大胆な金融政策の請負人でありました。2年程度で2%の物価上昇を実現する、そのためこれまでの2倍の国債の買い取りを行うほか、買い取る国債の残存期間も2倍に伸ばすといった内容でした。異次元緩和とか、黒田バズーカなどと言われました。

新たに政策実施後、当初-0.5%だった物価は1年少々で+1.5%くらいまで上がっていきましました。そこまではよかったです。2014年半ば頃から原油価格が大幅に下落してきました。また、中国経済の減速に伴う新興国経済が鈍化しててました。加えて、消費税率引き上げに伴う消費の低迷が長引いてしまいました。こうしたこともあって、2015年頃より再び物価は水面下に落ちてしまいました。

日銀は、その後、たび重なるつと以下緩和策を実施したほか、2016年1月にはマイナス金利政策を導入、同年9月にはそれまでの政策の総括的検証を踏まえて「イールドカーブ・コントロール」という、短期金利を-0.1%、10年物の長期金利を0%程度に縛る政策を導入しました。その後2017年頃から物価は再びプラスの領域に浮揚して今日の1%前後まで上昇してきています。

今の緩和政策が長期化するとどのような副作用があるか。利ザヤが縮小して金融機関、特に、国内で活動している地方銀行の収益を圧迫しています。また、財政の規律が緩むなど問題を抱えています。しかし、今はトータルとしてのメリットのほうがデメリットを上回るとして、引き続き粘り強く現在の緩和策を継続すると日銀では言っています。

黒田日銀の大胆な緩和政策もあって、景気はよくなったし、雇用情報はバブル期を上回る改善を示しています。一方、物価と金利は低水準のままです。日銀の物価見通しではあと2~3年の2%実現は無理。景気は来年度後半から減速していく可能性が高いとのこと。ということは、この緩和状態のまま、次なる景気後退局面を迎える可能性が高いということです。頼みは財政政策ですが、今のうちから財政再建の道筋を確立させていないと、悪い(長期)金利上昇を招いてしまいます。

出席状況	正会員数 本日出席会員数	56名 34名	カード出席 本日の修正出席率	9名 81.13%
------	-----------------	------------	-------------------	--------------